

平成 26 年度 第 2 回三原市市民協働推進委員会 概要

◇日時：平成 26 年 9 月 30 日（火）午前 9 時 30 分～午前 11 時 30 分

◇場所：本庁議会棟 3 階 委員会室

◇出席委員：12 名（欠席 3 名）

◇議事内容

◇主な意見（○委員，●事務局）

1 開会

2 報告

（1）三原市市民協働事業審査会委員について

（2）市民活動団体育成事業の審査状況について

（3）第 2 期三原市市民協働のまちづくり推進計画策定業者について

3 協議

（1）計画策定に向けての今後の進め方について（資料 1）

○：推進計画と他の計画の関係については調整するのか。

●：協働というものが 1 つの大きな柱，土台になる。推進計画に基づいて市民協働を意識しながら整理する。

○：協働を推進していく根幹の部分を実務内部で共有すれば推進計画の大きな成果となる。

○：協働事業の推進で理解している団体が多くなった現状がある。

アンケートやヒアリングで，協働のメリット・デメリット等について実施すれば課題も明確になる。

○：市民が考える市民協働と市民活動団体が考える市民協働に違いがある。団体にも成熟度や活動内容に違いがある。属性で分けて調べる方がいいのではないかな。

●：協働が進む，進んでいないという部分について，ヒアリング調査やアンケート調査で把握したいと考えている。

（2）現状と課題

○：住民組織は年々変化している。活動されていない住民組織はどのような状況なのか。少子高齢化やリーダーがいない等以外にも課題もあるのではないかな。

○：脱退者が増えてきている町内会がある。町内会活動のメリットを理解してもらえないと感じている。加入していた方が脱退している。

○：これまでの課題をどう解決したのかが今後協働を推進していくうえで必要になるのではないかな。

○：地域にどのような団体があるのかという情報が必要ではないかな。

○：団体がどのような状況なのかをアンケート調査し，後押しする計画でなければいけない。

○：協働の捉え方がぶれないような工夫をしなければいけない。調査票の冒頭のところに協働とはこういうものをいうのだと簡単な定義を説明して，回答者のイメージを一致させるほうがよい。

○：町内会に入らなくても生活に困らない。役員を担うのもしんどいから町内会に入らない。こういった傾向が一般的にはある。それらへの対応を考えていくことが今期のテーマではないかな。

○：住民組織では協働というのは捉えにくい。住民組織は最終的には地域防災や地域福祉の大きな役割

を担う協働のパートナーではないか。住民組織の協働と市民活動団体の協働は変わってくる。

- ：アンケート、ヒアリングを含めて協働の周知の機会になる。ヒアリングはワークショップのような形でおこなえば、互いにどんな組織があるのかを知る機会となる。
- ：町内会での河川清掃など、共通の目的があれば、協働が広がるのではないか。行政も資金面等でバックアップしてもらえば、多様なつながりができるのではないか。
- ：地域の魅力創造のために、地域の中で共通するもので取り組んでいることも評価されていいのではないか。うまくいっているとすれば、人的なもの、財政的なものを含めて調べてみると、何かあるかもしれない。やってみようと思うところが一つのポイントではないか。
- ：団体の活動を紹介することや、一同に会する「場」が必要ではないか。自分たちの団体はどのレベルで、この先、どんなサポートを受けたいのか、また、どこを磨けばステップアップできるのかということが分かる計画であればいい。
- ：それが推進していくための方策だと思う。アンケートやヒアリングをすることを一つのツールとして、推進するための方策をそこで実践しているという考え方もある。
- ：強み、弱みのカルテのようなものができればと思う。
- ：同じような取組みで、厚生労働省がかつて5段階で達成度を評価、自主点検できるようなものを提示したことがある。一つの指標として、自己チェックできるようなシートであった。

#### 4 その他

- ・アンケート調査、ヒアリング調査について

- ：共通する目的・目標がないと、協働というのはなかなかうまくいかないという実感がある。そこを整理して、アンケートにも反映させることが一つのポイントだと思う。
- ：アンケートの内容について委員に案を提示する。

- ・今後スケジュールについて

#### 5 閉会